

公益社団法人日本新体操連盟

平成 27 年度第 3 回理事会議事録

1. 会議名： 平成 27 年度第 2 回理事会
2. 日時： 平成 28 年 2 月 29 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分
3. 場所： 東京都港区西麻布 3-2-32
「霞会館」
4. 構成員現在数： 15 名
5. 出席役員： 二木 英徳（会 長）石崎 朔子（副 会 長）福本 隆（副 会 長）
池田真喜子（専務理事）渡辺 守成（常務理事）秋山エリカ（理 事）
崇島 慎一（理 事）谷口 裕代（理 事）橋本 千波（理 事）
守永 直人（理 事）
以上 10 名
6. 欠席役員： 関田史保子（副 会 長）山崎 浩子（常務理事）岡 久留実（理 事）
谷原 誠（理 事）宮嶋 泰子（理 事）小島浩二郎（監 事）
以上 6 名
7. 議案：
決議事項
第 1 号議案 平成 28 年度事業計画について（定款第 4、35 条、第 4 章関連事項）
第 2 号議案 平成 28 年度事業予算について（定款第 4、35 条、第 4 章関連事項）
第 3 号議案 代議員候補者推薦委員会について（定款第 5 条関連事項）
第 4 号議案 チャイルド選手権について（定款第 4 条関連事項）
第 5 号議案 その他

8. 議事の経過及び結果

(1) 議長による開会宣言

（公社）日本新体操連盟・定款第 30 条第 2 項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。

(2) 議事録署名人の選出

定款第 32 条により、議長は議事録署名人を二木会長と石崎副会長と秋山理事にする事を議場に諮り承認された。

(3) 定足数の確認

定款第 31 条の定めにより、理事会出席者数が 10 名であることが池田真喜子理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。

(4) あいさつ

議長は挨拶をすませ、池田理事が進行を務めるよう依頼した。

(5) 議決事項

第 1 号議案 平成 28 年度事業計画について（定款第 4、35 条、第 4 章関連事項）

議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 3 月 18 日に総会が開催される。その総会に向けて事業計画等を最終確認したい。
2. 第 25 回全日本新体操クラブ選手権 7 月 22 日～24 日千葉ポートアリーナにて開催する。
3. 第 16 回全日本新体操クラブ団体選手権 8 月 20 日～21 日東京体育館にて開催する。
前回理事会で上がった、全中大会との日程調整の件は日本体操協会を通じて調整し、全中大会が個人と団体の競技日を入れ替えて実施する事の連絡があった。
4. イオンカップ 2016 世界新体操クラブ団体選手権 9 月 9 日～11 日東京体育館にて開催する。
5. 第 17 回日本新体操祭 9 月 10 日東京体育館にて開催する。40 チームでエントリーを打ち切りたい。
6. 第 19 回全日本新体操チャイルド選手権第 16 回全日本新体操キッズコンテスト 2 月 24 日～26 日東京体育館にて開催する。
7. セミナーは計画を一応するが、講師の日程の調整が難しい件、実施しても参加者が集ま

らない等により開催が難しい。現在変革を進めているコーチ認定制度を確定したい。

(質疑・意見)

石崎理事より、日本新体操祭で最優秀チーム等を決めてみてはどうかと意見があったが、決める基準、審査委員の配置、時間的問題で見送られることとなった。

石崎理事より、コーチ認定制度をFIGコーチアカデミーみたいにしてはどうかと意見があった。

渡辺常務理事より、このセミナーをしっかりとやらないと日本の新体操レベルが下がると意見があった。

以上の質疑、意見の後、第1号議案「平成28年度事業計画について」は全会一致で承認可決された。

第2号議案 平成28年度事業予算について（定款第4、35条、第4章関連事項）
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 実績を基に予算を作成した。
2. 収入はそこまで変わっていない。
3. 新体操祭は40チームにした場合の予算額で組んでいる。
4. 全体的には収入は少な目、支出は大目に見ている。
5. 事務局スタッフを1名入れることを考えており、人件費を増やしている。
6. 事業収入を3億169万1320円、事業支出2億8583万1320円、管理費支出を1586万円、事業支出と管理費を合わせた事業活動支出計3億169万1320円。収支差額を0円とした。

(質疑・意見)

二木会長よりバッジテストを実施しなければと意見があった。池田理事よりコーチ認定と一緒に進めていきたいと意見があった。

渡辺常務理事より、バッジテストは別途進めていくべきで、本部主導でモデルケースを作るべきだとの意見があった。

秋山理事より、ロシアの参考資料があるので次回参考資料で提出したいと意見があった。

以上のやり取りの後、バッジテストを近いうちに実施できるよう進めていくこととなった。

以上の質疑、意見の後、第2号議案「平成28年度事業予算について」は全会一致で承認可決された。

第3号議案 代議員候補者推薦委員会について（定款第5条関連事項）
議長は説明者として池田真喜子理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

1. 本連盟代議員の任期は2年となっている。2016年度末で任期切れとなる。
2. 2017・2018年度代議員を会員に推薦する「代議員候補者推薦委員会」メンバーを総会に諮りたい。
3. 前回は規程に従い、二木会長と事務総長で池田専務理事。その他3名は総会で石崎副会長、福本副会長、渡辺常務理事が委嘱され計5名となった。
4. 今回も前回同様のメンバーで諮りたい。

(質疑・意見)

石崎副会長より、代議員の会議出席率を上げるために、存在意義を上げる方法を検討してはどうかと意見があった。ステータスを持たせるためにバッジなどを配ってはどうかとあり検討することとなった。

以上の質疑、意見の後、第3号議案「代議員候補者推薦委員会について」は二木会長、池田事務総長兼専務理事、石崎副会長、福本副会長、渡辺常務理事で総会に諮ることで全会一致で承認可決された。

第4号議案 チャイルド選手権について(定款第4条関連事項)
議長は説明者として谷口裕代理事を指名し、谷口理事は下記内容の説明を行った。

1. 2月28日まで開催されたチャイルド選手権にて、谷口、橋本、岡各理事、藤綱審判長、村田副審判長、鈴木審判で会談を持った。
2. 大会を見た結果、3・4年生の身体の動きがきれいではなかった。
3. その問題を改善するために、予選を徒手、決勝を手具若しくは、予選決勝を同種目にする事を提案したい。
4. ダイナミックローテーションを2回転から1回転に変更したい。
5. ピボットとバランスはかかと上げで行う。
6. 落下減点を減らす。
7. キッズコンテストはピンヒールやつま先が見えないものは禁止、難度を含むこととする。
8. 参加者への参考のためにモスクワグランプリの配信先を紹介したい。

(質疑・意見)

福本理事より、キッズでピンヒールは流石に危なかったと意見があった。

石崎副会長より、この時期には身体機能を育てるために色々やらせた方が良い。大きくなってからでは遅く、将来怪我をさせる危険性があると意見があった。

秋山理事より、全日本大会に制限を設ける必要がなく、ルール変更の必要性を感じないと意見があった。

二木会長より、レベルの低い所に合わせるのではなく、大会は最高のパフォーマンスを発揮する場所にするべきだと意見があった。

橋本理事より、徒手大会としてきた時よりどっちつかずでバラバラになってきていると意見があった。

二木会長より、提案された問題はコーチの資質レベルの問題で大会を低いレベルに合わせるべきではない、挑戦を阻害する必要はないと意見があった。

石崎副会長より、キッズコンテストのフロア周りの柵を無くして欲しいと意見があった。

以上の質疑、意見の後、第4号議案「チャイルド選手権について」は3・4年生の部では、落下減点を減らす事、ピボットとバランスはかかとを上げて行ってもらうよう推奨する事。キッズコンテストではマットを傷付けるもの、つま先が見えない履物若しくは運動に適さないような履物は禁止とする事で全会一致で承認可決された。

第5号議案「その他」について

議長は議場にその他議案が無いか確認したがその他の議案は出なかった。

(6) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成28年2月29日

公益社団法人 日本新体操連盟 平成27年度第3回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 石 崎 朔 子

同 秋 山 エリカ